第３回ホウ素中性子捕捉療法（ＢＮＣＴ）推進協議会の概要について

１　と　き　　平成３０年３月２２日（木）午後３時～４時５０分

２　ところ　　ホテル　プリムローズ大阪　２階　鳳凰（東）

３　会議の概要

1. 議題１　BNCTの実用化を見据えて

　　　　（日本中性子捕捉療法学会との役割分担について）

①　ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の実用化を見据えて

第２回協議会（H２９年度）にて、本協議会とBNCT学会との活動に重複する部分がある等のご意見を踏まえ、両者の役割分担を明確にするとともに、学会が本協議会に期待する役割等について、学会の幹事である平塚委員から説明がありました。

　　②　BNCT推進協議会が果たすべき役割について

　　　　　　学会の基本的な考え方を踏まえ、本協議会として、専門人材育成や情報発信等、学術的な領域以外の課題について学会等との連携・協力を図りながら、必要なサポートに取り組んでいく旨、川端委員長等から報告があり、取りまとめ案について承認されました。

1. 議題２　各拠点における取組み状況等について

　　　　　各拠点におけるBNCTの取組み状況等について紹介がありました。

1. 大阪大学における取組み

大阪大学大学院　医学系研究科　助教　　　　　　　　　礒橋　佳也子　氏

1. 大阪府立大学　ＢＮＣＴ研究センターにおける取組み

大阪府立大学

地域連携研究機構　ＢＮＣＴ研究センター　特認教授　　　切畑　光統　氏

1. 京都大学原子炉実験所における取組み

京都大学原子炉実験所

粒子線腫瘍学研究センター長　　　　　　　　　　　　　　　鈴木　実　氏

1. 大阪医科大学　関西ＢＮＣＴ共同医療センターにおける取組み

大阪医科大学　関西ＢＮＣＴ共同医療センター長　　　　　小野　公二　氏

1. 筑波大学における取組み

筑波大学　医学医療系　生命医科学域　准教授　　　　　　熊田　博明　氏

1. 南東北ＢＮＣＴ研究センターにおける取組み

南東北ＢＮＣＴ研究センター長　　　　　　　　　　　　　髙井　良尋　氏

1. 国立がん研究センターにおける取組み

国立がん研究センター　放射線治療科長　　　　　　　　　　伊丹　純　氏

（事務局代読）

1. 議題３　平成２９年度事業報告及び平成３０年度事業計画について
   1. 人材育成ＷＧについて

　　　　会議資料のとおり、平成30年度事業計画について承認されました。

　　　　【主な説明】

　　　　　・今年度のBNCT講習会は、４日間連続して受講生が参加するというのが難しいのではというご意見を踏まえ、前半２日間は大阪医科大学で講義、後半２日間は京都大学原子炉実験所で実習と分割日程で実施し、講義は30名、実習は７名の方に参加いただいた。

　　　　　・実習カリキュラムについて、今後の医療機関での加速器BNCTの実施を見据え、加速器シミュレーション実習を中心としたものに変更した。

　　　　　・学術研究を担う人材の育成については、学会が中心となって担っていただき、BNCT医療実施施設における現場スタッフの人材育成については、当WGで進めていきたいと考えている。

　　　　　・BNCTの医療実用化が実施されるまでの間は、当WGが医療スタッフの人材育成に取り組むが、医療としての実用化を念頭に置けば、いずれは医療拠点へシフトしていくものと考えている。

* 1. 安全・高度化ＷＧについて

　　会議資料のとおり、本WGは、本年度末をもって廃止することが承認されました。

　　　　【主な説明】

・本WGでは、患者に対するより安全かつ高品質な医療手段の確立及び医　療スタッフの安全確保を目的として活動を行ってきたが、本WGの課題については、学術的な内容であるため、学会と推進協議会との役割分担の整理を踏まえれば、本来的には学会もしくは研究者や企業が対応すべきものと考えられる。

　　　　　・安全・高度化という課題は、BNCTシステムを有する各研究組織で医療としての展開が進展しつつある状況のもとで、それぞれ個別の課題というものがかなり多くあり、当面はそれぞれの組織での独自的課題として検討すべきものと思われる。

　　　　　・以上により、本WGは本年度をもって終結する。

* 1. 平成29年度課題ＷＧについて

　「BNCT窓口相談事務マニュアル作成検討WG」において、各医療機関の窓口における一次的な対応であり、医師につなぐまでの窓口相談対応の基本的事項を取りまとめたマニュアル（案）について審議いただきました。しかし、この内容の一部に修正意見が出たため、本件については、委員長預かりとなり、修正を検討することになりました。

【主なご意見】

　　・各医療機関において共通の対応がされることは患者さんへの配慮という観点からも、大変有意義である。今後は事務職員がつないだ後の医師の対応についても、認識を共有すべきところがある。

　　・当面は、南東北BNCT研究センターと関西BNCT共同医療センターの２施設でBNCTを実施することになるが、両施設において具体的な事例にかかる対応等についてもご検討願いたい。

・マニュアルの中で、加速器のBNCTと原子炉のBNCTが混同している部分があり、その整理が必要。

・明らかに適応外である問い合わせもあるため、このマニュアルを事務の方にうまく使っていただけたらいいと思う。

（４）　議題４　事務局からの報告

　　　　　京都大学と大阪医科大学が連携して実施するとともに、大阪府が住友重機械工業株式会社からの寄附による企業版ふるさと納税を活用した支援により実施している「BNCT専門人材育成・情報発信事業」について、会議資料に基づき事務局から報告しました。

また、下記ご意見を踏まえ、今回作成したBNCTリーフレットについて、先生方等にご相談しながら、計画的・効果的な配布に努める旨お答えしました。

【主なご意見】

　　・事務局への提案として、これまで各自が各々で国内外の会議等でBNCTのパンフレットを配布していたが、推進協議会事務局の取組みとして、送付・配布等の対応についても検討いただきたい。

＜閉　会＞